

第79回 川上 澄香さん (独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第79回目は、川上 澄香さんにご執筆いただきました。

臨床との距離感

私が研究をするうえで大切にしたいと思っていることについて、お話ししたいと思います。それは、臨床との距離感です。

私は作業療法士になるための学部に入學し、臨床現場に必要な知識の習得や実習に励んでいました。一方で、一般教養の授業にでは心理学の興味深い研究の世界にも憧れてみたり、「でも、臨床現場でつかえるというかというと、どうなんだろう…」と悩んでみたりしていました。3年生の時、卒論を書くため研究室に配属されました。その研究室は、精神科医や臨床心理士から、実験心理学や情報工学出身の者など、多彩なメンバーが揃っていて、臨床現場でみられる患者さんの困りごとの背景を探索する基礎研究を行っていました。この研究室のメンバーに加われたことが、私が臨床と基礎をつなぐ研究者になりたいと思うに至った最大のきっかけでした。そして大学院では、臨床実習で出会った自閉スペクトラム症のお子さんが感覚機能面にも定型発達と異なる部分があったことについて考えたことをきっかけに、社会認知機能と感覚機能の関連に興味をもち、それを研究テーマとしました。

私にとって、研究という机の上で考えていることを、臨床に落とし込んだ時にどうなるかなと考えてみることは、研究をするうえで大きな原動力となってくれています。これからもそれを忘れずに、研究していきたいと思っています。

川上 澄香 (Sayaka KAWAKAMI)

【所属】 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所

【連絡先】 k.m.sayaka@gmail.com

【HP】 https://researchmap.jp/sayaka_k